



日本ワイナリーアワード® ご紹介

一般社団法人 日本ワイナリーアワード協議会



日本ワイナリーアワード®は
優れた日本ワインを生み出す
醸造家・ワイナリーを顕彰しています

ごあいさつ

明治初期にスタートした日本におけるワイン造りは、21世紀になり新たなフェーズに入りました。個性豊かなワインの造り手が次々と登場し、今や全国で300社を超えるワイナリーが活動しています。日本ワインが世界的なコンクールでトップクラスの評価を得ることも珍しくなくなりました。まさに日本ワインは新時代に突入したのです。

日本ワイナリーアワードは数多くの日本ワインの中から、傑出した品質を誇るワイナリーを顕彰することを目的に設立しました。従来のコンクールのように個別の銘柄に対する評価ではなく、ワイナリーそのものを評価しています。スイートルームはもちろん、スタンダードクラスの客室でも十分に満足できる、ホテルの格付けを連想されるとわかりやすいでしょう。アワードで選出されたワイナリーが生み出すワインは、クオリティーが高く満足できるものばかりです。日本を代表する珠玉のワインをぜひお楽しみ下さい。このアワードが、ワインを愛する消費者の方々が日本ワインを選ぶときの一助になることを願ってやみません。

お気に入りのワインを見つけたら、ぜひそのワイナリーを訪問してみましょう。全国各地にあるワイナリーを訪れ、ブドウ畑に吹く風を感じ、ワインと同じ土から生まれた地元の食材による料理とのマリージュを楽しみましょう。ワインとは、その産地の気候風土(テロワール)のすべてを楽しむものなのです。



一般社団法人日本ワイナリーアワード 協議会

代表理事／アワード審議委員長

遠藤利三郎

日本ワイナリーアワード® が目指すもの

Our Mission —私たちの使命—

日本ワインの生産者が世界品質を生み出すための“道しるべ”になること

日本各地にワインの醸造家が増え、日々技術と品質の向上に励んでいます。

日本ワイナリーアワードは、日本ワインの醸造家の中でも傑出した品質のワインを産出するワイナリーを顕彰することで、多くの人たちに日本ワインの価値を啓発すると共に、醸造家が目指すべき品質の指標となり、日本ワイン全体のレベルが向上して、世界に認められるワインとなることに寄与します。

Our Vision —私たちのビジョン—

日本ワインが世界に認められるレベルになること

日本ワインの醸造技術が向上し評価も上がる一方で、関税の撤廃で輸入ワインとの市場競争も厳しさを増しています。

私たちは、日本ワイナリーアワードの取り組みにより、日本ワインが世界から認められる品質となり、他国の多くのワインに埋もれることなく多くの人から選ばれる存在となることを目指します。

日本ワイナリーアワード® の仕組み

審査対象： 審査対象は原則として、設立より5年以上経過した国内ワイナリーとする。
委託醸造ワイナリーについては、5年以上の生産歴があり最新のヴィンテージで年間1,000本（750ml換算）以上生産しているワイナリーを審査対象とする。

審査員： 世界各地のワインに精通し、10年以上に渡り下記のいずれかに従事するワインの専門家（ただし、醸造家は除く）

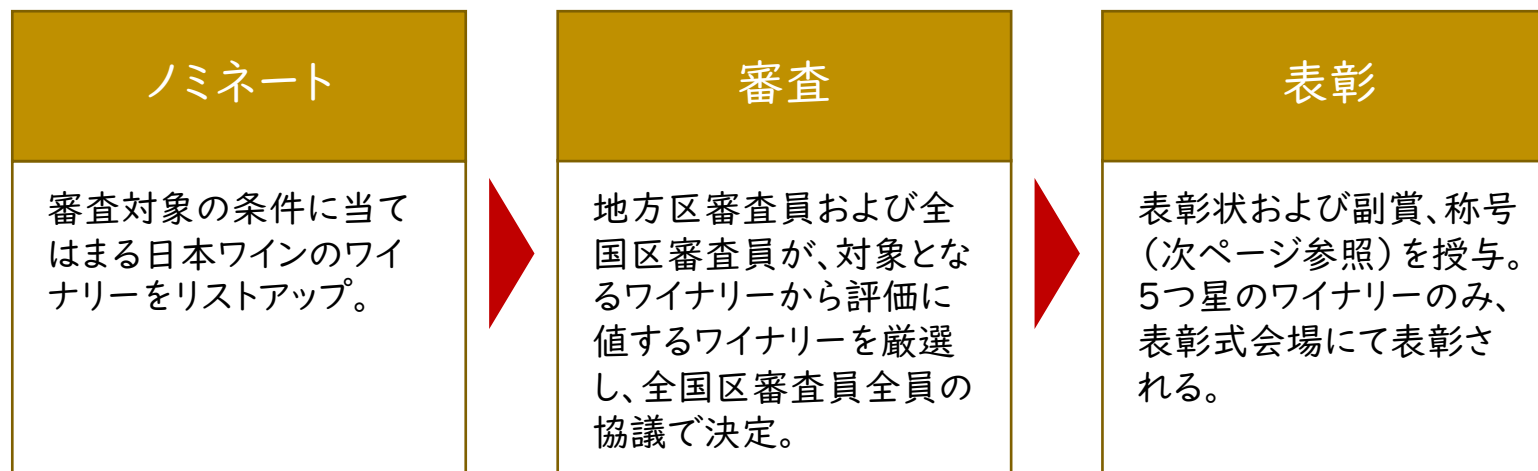
1. 日本ワインを広く取り扱う酒販店の代表者または仕入れ担当者
2. 日本ワインを広く取り扱う飲食店の代表者または仕入れ担当者
3. 日本ワインに関する著作・記事のある者

※消費者の目線に立った評価をするためにワイナリー関係者は含めない。

※審査員は2年ごとに見直す。

※各地区4名以上、主要地区は6名以上で審査。

審査方法：



日本ワイナリーアワード® の審査基準と称号

日本ワイナリーアワードはワイン単体ではなく、良いワインを生み出すテロワールとつくり手に与えられる賞です。消費者に一番近い立場にいるプロフェッショナルが、世界中のワインを知った上で「この日本ワインなら胸を張ってお客様にすすめてできる」と評価したワイナリーに贈られます。

Japan Winery Award



5つ星は最高評価のワイナリー。
多くの銘柄・ヴィンテージにおいて、傑出した品質のワインを生み出すワイナリーが受賞します。

Japan Winery Award



4つ星は非常に高い評価のワイナリー。
全体的に良質で安定感があり、銘柄やヴィンテージによっては傑出した品質のワインを生み出すワイナリーが受賞します。

Japan Winery Award



3つ星は高い評価のワイナリー。
安定感があり、ほとんどのワインが良質で安心して購入できるワインを生み出すワイナリーが受賞します。

Japan Winery Award

コニサーズワイナリー

コニサーとは、鑑定家や目利きの意味。評価に値する個性あるワインを生み出すワイナリーが受賞します。

日本ワイナリーアワード® 設立メンバーのご紹介

『一般社団法人 日本ワイナリーアワード 協議会』を設立しました

日本ワイナリーアワード 審議会は2020年2月25日、一般社団法人 日本ワイナリーアワード 協議会として新たなスタートを切りました。協議会一同、日本各地の地域振興に貢献できますよう、取組んでまいります。

■日本ワイナリーアワード 審議委員長

(一社) 日本ワイナリーアワード 協議会 代表理事

遠藤利三郎 / *Risaburo Endo*

[本名: 遠藤誠 / *Makoto Endo*]

1962年東京生まれ。学習院大学経済学部卒。アカデミー・デュ・ヴァン講師、早稲田オープンカレッジ講師、外務省在外公館赴任前研修日本ワイン講座担当、日本輸入ワイン協会事務局長、日本ワインコンクール審査員、フーデックス・ジャパン企画委員、塩尻市ワイン大学学長。ボルドー、ブルゴーニュ、シャンパーニュの3大ワイン騎士団を始め多くの騎士団から騎士の称号を受ける。著書に「ワイン事典(学研)」、共著に「日本ワイナリーガイド(新樹社)」など多数。現在ソムリエ協会会報にエッセーを連載中。ワインバー遠藤利三郎商店オーナー。

■日本ワイナリーアワード 顧問

(一社) 日本ワイナリーアワード 協議会 理事

石井もと子 / *Motoko Ishii*

輸入ワインのマーケティングに関わり、各国のワイン生産者団体—NZ WINE Growers(ニュージーランドワイン栽培生産者協会)、WOSA(南アフリカワイン協会)、OWB(オレゴンワイン生産者協会)—の日本代表を務めた。傍らワインジャーナリストとして活躍。2006年よりガイドブック「日本のワイナリーに行こう」(監修・執筆)を発行、日本ワインの振興に努める。講談社「日本版ワインツーリズムのすすめ」など著作、寄稿多数。日本ワイナリー協会顧問。

■日本ワイナリーアワード 事務局長

(一社) 日本ワイナリーアワード 協議会 理事

山本光子 / *Teruko Yamamoto*

1983年北海道大学法学部卒。日本リクルートセンター、西武百貨店本部営業企画室、札幌西武を経て、2001年(株)NTTドコモ北海道。販売促進担当部長、マーケティング部長。2004年(株)電通北海道。第1回日中韓観光大臣会合、洞爺湖サミット記念北海道環境総合展、エゾシカ利用促進事業、アイヌ文化啓発「イランカラプテキャンペーン」、食と環境・国際フォーラム、ミシュランガイド北海道2012などプロデュース多数。2014年(株)ぐるなび。上席執行役員プロモーション部門長。京都、日本橋はじめ日本各地の食・観光関係とのリレーションが深い。2020年4月～立命館大学食マネジメント学部客員教授。北海道シンガポール友好協会会員。日本広報学会会員。日本サウナ学会会員。ボルドー騎士団コマンドウール。

日本ワインについて

国内のワイナリー数は年々着実に増加。

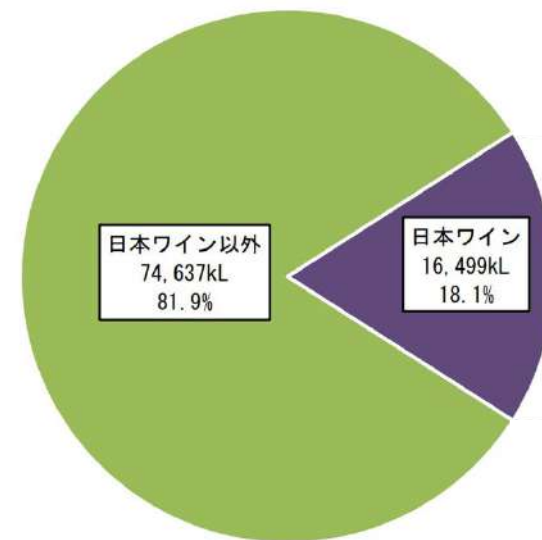
また海外での日本ワインの評価も向上、輸出量も年々増えています。

●日本ワインとは

日本国内で栽培されたブドウを100%使用して日本国内で醸造されたワインのこと。

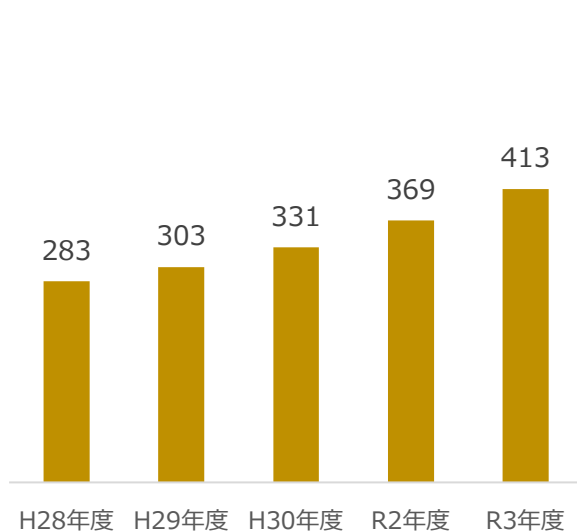
背景として、国内における酒類消費が横ばいの中、ワインは近年消費が拡大している成長産業であること、特に国産ぶどう100%を原料とする「日本ワイン」の中には海外で高い評価を受ける高品質なものが出てきていることから、日本ワインとその他のワインを明確に区別し、日本ワインには産地・品種・年号等の表示ができるよう、国税庁が2018年10月30日に制定。

国内製造ワインの製成数量構成比

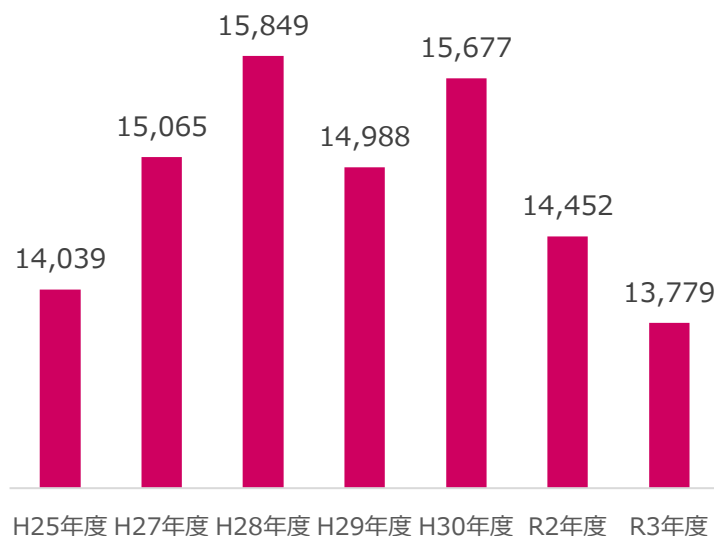


出所： 国税庁「酒類製造業及び酒類卸売業の概況（令和3年調査分）」

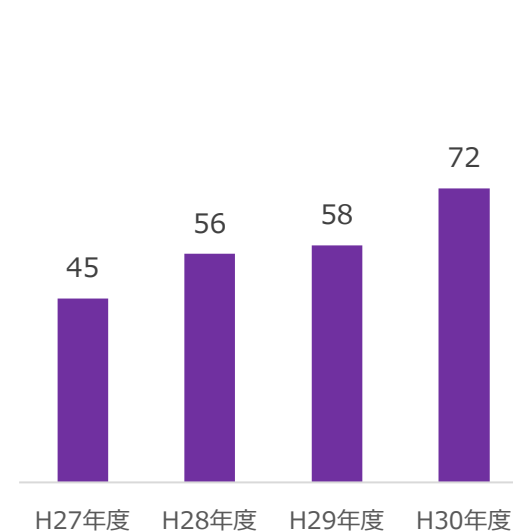
国内ワイナリー数（場）



日本ワイン出荷量（kl）



日本ワイン輸出量（kl）



出所： 国税庁「酒類製造業及び酒類卸売業の概況（平成27年～令和3年調査分）」

※果実酒製造業者実態調査によるものであり、必ずしも回答者が同一ではないため、経年比較にあたっては参考値であることに留意する

日本ワイナリーアワード® のあゆみ

▼第1回 日本ワイナリーアワード



▼第2回 日本ワイナリーアワード



▼第3回 日本ワイナリーアワード



▼第4回 日本ワイナリーアワード



第5回 日本ワイナリーアワード®2022

2022年6月3日開催（会場：東京會舘）



第5回を迎えた今年は、新型コロナウイルスの脅威が完全に払拭されたわけではありませんでしたが、感染対策の定着もあり社会活動が再開され始めたことから、本年も感染対策を厳守し、会場開催とYouTube配信のハイブリッド形式で授賞式・発表会を実施しました。また、時間と規模を限定して試飲会も再開しました。



第5回 日本ワイナリーアワード® 2022 開催概要

会 名 称： 第5回 日本ワイナリーアワード® 2022

開 催 日： 2022年6月3日（金） 12:00～13:30

※YouTubeでライブ配信

会 場： 東京會館 7Fクインス
東京都千代田区丸の内3-2-1

参 加 者： メディア、関係省庁、ワイナリー関係者など約70名
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、人数を制限して開催しました

審 査 員： 計16名（審議委員長、全国区審査員5名、地方区審査員10名）

特別審査員： ・株式会社 蛇の市本店 5代目／日本橋三四四会第19代会長 寶井英晴氏
・株式会社 嵐山弁慶 代表取締役／京都料理芽生会会長 磯橋輝彦氏

特別ゲスト： 日本ソムリ協会ソムリエ・ドヌール／参議院議長 山東昭子氏

後 援： 農林水産省、国土交通省観光庁

協 賛： リーデル・ジャパン、株式会社グローバル

内 容： ・来賓、特別ゲストの挨拶
・アワード受賞ワイナリーの発表、表彰
・受賞ワイナリーによるミニトークセッション
・5つ星ワイナリーのワインの試飲、意見交換会、ほか



第5回 日本ワイナリーアワード® 2022 受賞ワイナリー

2022年6月3日、2022年度の受賞ワイナリーを発表しました。



【5つ星】

多くの銘柄・ヴィンテージにおいて
傑出した品質のワインをうみだす
ワイナリー

16 場



【4つ星】

全体的に良質で安定感があり、
銘柄やヴィンテージによっては傑
出したワインをうみだすワイナリー

60 場



【3つ星】

安定感がありほとんどのワインが
良質で安心して購入できるワイン
をうみだすワイナリー

87 場

コニサーズ

評価に値する個性のあるワインを
うみだすワイナリー

48 場

※昨年より1場増えました！

★★★★★ 【5つ星】 ワイナリー

北海道 ドメーヌ・タカヒコ

北海道 山崎ワイナリー

山形県 酒井ワイナリー

山形県 高畠ワイナリー

山形県 タケダワイナリー

山梨県 勝沼醸造

山梨県 機山洋酒工業

山梨県 Kisvinワイナリー

山梨県

山梨県

山梨県

山梨県

山梨県

長野県

長野県

大分県

サントリーワインインターナショナル

シャトー・メルシャン

ダイヤモンド酒造

中央葡萄酒

丸藤葡萄酒工業

小布施ワイナリー

Kidoワイナリー

安心院葡萄酒工房



日本ワイナリーアワード® の受賞ワイナリー数推移

当アワードで表彰されるワイナリー数も年々増加。

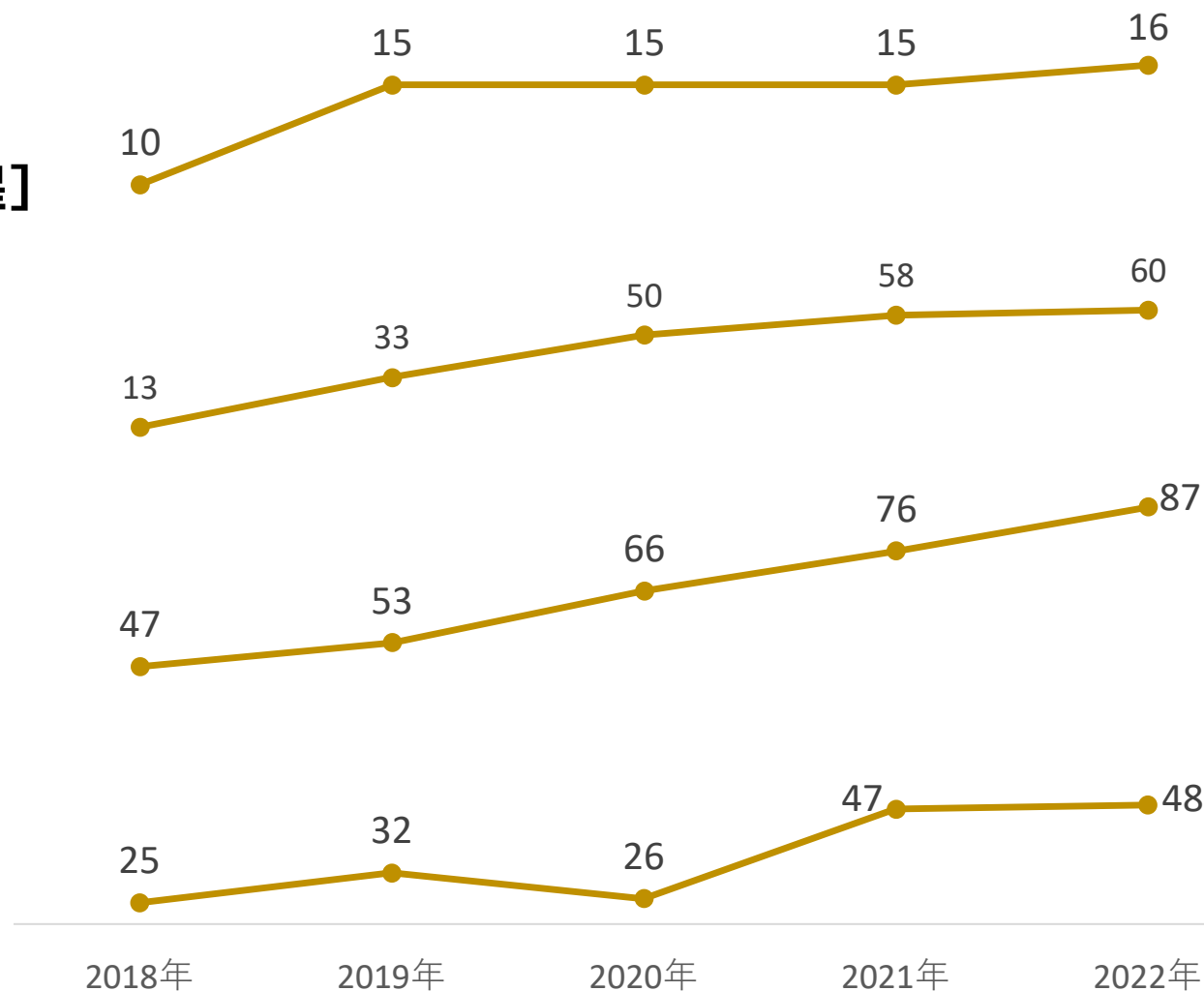
日本ワインの世界が規模・実力共に向上していることは大変喜ばしいことです。

★★★★★ [5つ星]

★★★★ [4つ星]

★★★ [3つ星]

コンサース



関係省庁等もエールを

関係省庁等の方々が日本ワイナリーに期待を寄せ、当アワードの活動と日本ワイナリーの発展にエールをくださいました。

■ご来賓出席（後援）

- ・農林水産省 平形雄策農産局長
- ・観光庁 観光地域振興部 星明彦観光資源課長

■特別ゲスト

- ・日本ソムリエ協会ソムリエ・ドヌール 山東昭子参議院議長

■ゲスト

- ・外務省 南慎二 在外公館課長
- ・文化庁 野添剛司 食文化担当参事官
- ・日本食品海外プロモーションセンター（JF00D0）高橋由篤事務局長



審議委員長 遠藤利三郎



山東昭子参議院議長



農林水産省 平形雄策農産局長



観光庁 星明彦観光資源課長



（左）JFOODO 高橋由篤事務局長、（中）文化庁 野添剛司食文化担当参事官、（右）外務省 南慎二在外公館課長

女性醸造家によるミニトークセッション

今回、初の試みとして受賞ワイナリーによるミニトークセッションを開催。
パネリストとして5つ星を獲得した女性醸造家お二人に登壇いただきました。
興味深いことに、4つ星、5つ星と獲得星数が増えるにつれて、女性醸造家の
比率も増える傾向にあります。
ワイン醸造においても、ますます女性の活躍が期待されます。

■パネリスト

株式会社Kisvin 醸造責任者 斎藤まゆ氏
有限会社タケダワイナリー株式会社 代表取締役社長 岸平典子氏

■ファシリテーター

ワインコーディネーター&ワインジャーナリスト 石井もと子氏



ワインジャーナリスト 石井もと子氏



タケダワイナリー 岸平典子氏



Kisvinワイナリー 斎藤まゆ氏



ワイン造りをリードする女性醸造家



日本ワイナリーアワード® とメディア①

2022年、日経MJ（2022年6月8日付）全5段企画広告

高品質日本ワインを造る 5つ星ワイナリーを選出

「日本ワイナリーアワード®」は、設立より5年以上経過した国内ワイナリーを対象として、表彰するアワード。
2022年は全国の審査員が対象ワイナリー327場を厳選したうえで評価し、211場が表彰された。

今年の「日本ワイナリーアワード®2022」は、6月3日にオンラインでの授賞式を基本とするハイブリッド形式で開催された。ワイン評論家の遠藤利三郎氏を審議委員長として、設立より5年以上経過した国内ワイナリー327場を対象に審査した。今回は特別審査員として、蛇の市本店5代目の寶井英晴氏、嵐山精農 代表取締役の磯橋輝彦氏が参加。会場では211場が表彰され、今回、従来の15場ではなく16場が5つ星ワイナリーを獲得、増上やリモート参加で、表彰状を授与された。

遠藤審議委員長は「ワイナリーの数は今年中にも全国で500場に届く勢いだ。審査員により選出した素晴らしいワイナリーを知っていただき、これからも日本ワインの発展に貢献したい」と述べた。さらに参議院議長を務める山東昭子氏からの挨拶がアワードに花を添えた。

5つ星に選ばれたワイナリー

【北海道(2場)】
・ドメヌ・タカヒコ
・山崎ワイナリー

【山梨県(8場)】
・勝沼醸造
・機山洋酒工業
・Kisvinワイナリー
・サントリーワインインターナショナル
・シャトー・メルシャン
・ダイヤモンド酒造
・中央葡萄酒
・丸藤葡萄酒工業

【山形県(3場)】
・酒井ワイナリー
・高島ワイナリー
・タケダワイナリー

【長野県(2場)】
・小布施ワイナリー
・Kidoワイナリー

【大分県(1場)】
・安心院葡萄酒工房

4つ星、3つ星、コニサズについては、公式WEBサイトをご覧ください

特別審査員を務めた蛇の市本店5代目の寶井英晴氏、嵐山精農 代表取締役の磯橋輝彦氏が選出
2022特別審査員賞 寶井英晴賞 10Rワイナリー 2022特別審査員賞 磯橋輝彦賞 井筒ワイン

【主催】 一般社団法人日本ワイナリーアワード協議会

【協賛企業】



【後援】



企画・制作=日本経済新聞社
Nブランドスタジオ

広告



※集合写真撮影時のみマスクをはずしています

日本ワイナリーアワード®とは

消費者がワインを楽しむ際の一助となるべく、高品質な日本ワインを造るワイナリーを表彰・発信している。審査対象は、原則として設立より5年以上経過した国内ワイナリー。ワインの個別銘柄を審査対象とするのではなく、入手しやすさを重視してワイナリーそのものを審査対象としている。ワインの熟成期間も考慮し、植え付けより5年以上とする。

「赤や白などスタイル別で品質にばらつきはないか」「複雑性、濃縮感などのバランスに優れ、高貴さを持つか」「収穫年に左右されず品質の安定感があるか」「テロワールを表現できているか」「コストパフォーマンスに優れているか」「ワインが一貫して個性を持っているか」を審査基準として評価する。

日本ワイナリーアワード® とメディア②

2022年は新聞・雑誌・専門WEBメディアをはじめ、多数の取材を受けました。

■主な新聞社（社名／媒体名）

- ・日本経済新聞社／日経MJ
- ・日本食糧新聞社／日本食糧新聞
- ・食品産業新聞社／食品産業新聞
- ・食料醸造界新聞社／食料醸造界新聞
- ・山梨日日新聞社／山梨日日新聞

■主な雑誌社（社名／媒体名）

- ・ワイン王国社／ワイン王国
- ・たる出版株式会社／月刊たる
- ・美術出版社／ワイナート
- ・集英社／エクラ
- ・株式会社Begin／MEN's EX
- ・株式会社JALブランドコミュニケーション／JALグループ機内誌『SKYWARD』

■主な専門WEBメディア（社名／媒体名）

- ・ブロードエッジ・ウェアリンク／wine@ MAGAZINE
- ・美術出版社／ワイナート(WEB)
- ・日経ビジネスプレス／JBpress autograph

【WEBメディアでの掲載事例】

